

II

内部質保証と評価

淑徳大学の内部質保証と自己点検・ 評価について	43
成果指標	44
外部評価	64

淑徳大学の内部質保証と自己点検・評価について

淑徳大学は、内部質保証及び自己点検・評価について、「淑徳大学 自己点検・評価委の指針(以下「指針」)」を2020年3月に策定しました。この指針に基づき、2020年度より大学の内部質保証システムを見直し、図に示すように自己点検・評価を実施しています。

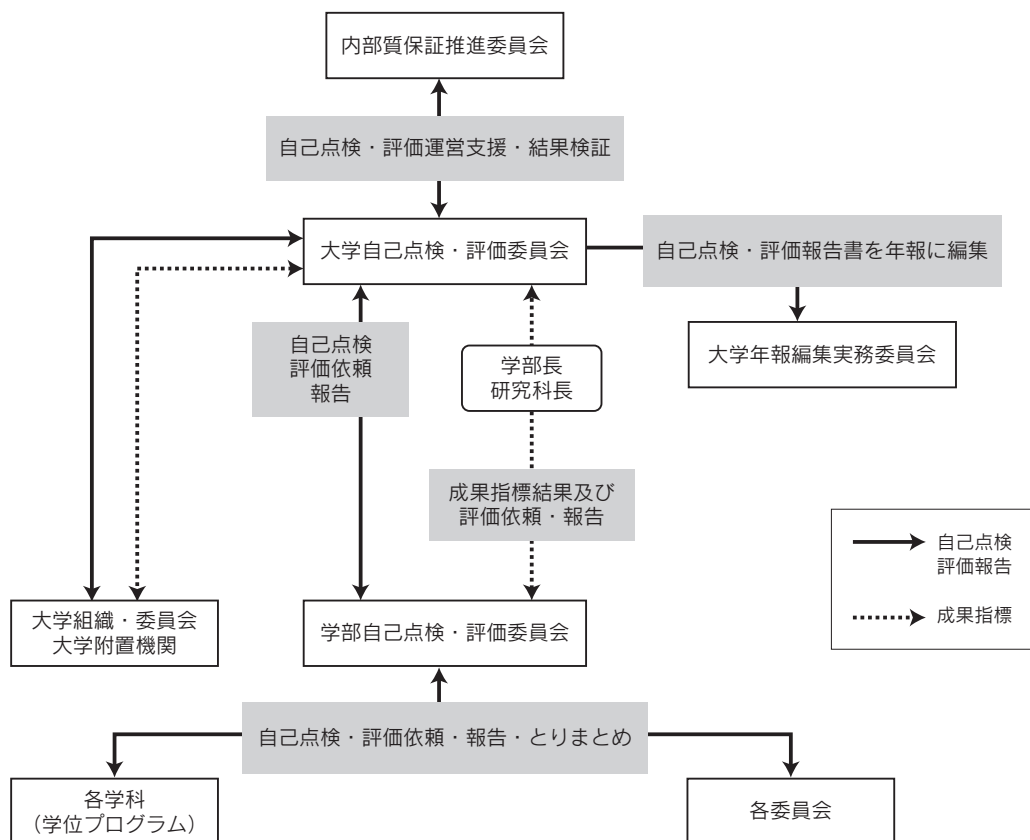


図 淑徳大学の自己点検・評価

また自己点検・評価は、3つの方針や、大学基準ごとの方針及びFD及びSDの方針を実現し、大学としての質を本学自らが保証するために行います。また3年後(2022年度末)に達成すべき定量的及び定性的な指標として成果指標が各組織に設定され、自己点検・評価と成果指標が連携して、自己点検・評価システムを構成しています。

本学の自己点検・評価は、大学基準(領域)ごとに自己点検・評価のサイクルを定めています。各部局や委員会は自分達が主に該当する大学基準の自己点検・評価サイクルにあわせて、自己点検・評価を行います。また自己点検・評価を行わない年度は、モニタリングを行うこととなります。

成 果 指 標

教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標

第1部 II 内部質保証と評価

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
1. 理念・目的	淑徳大学の理解 淑徳大学の建学の精神と大学の歩みを理解し、自分の生き方を探求していく機会を提供する。	1-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 自校教育プログラムの実施と参加勧奨 	<ul style="list-style-type: none"> 自校教育プログラムの実施と参加勧奨を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 宗教行事、セミナーなどを、各キャンパスの実態に応じて設定する。
2. 内部質保証	内部質保証システムの確立の為、PDCAサイクルを適切に行い、不断的に教育改善や教育改革に取り組む。	2-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 各部署や委員会が、3つの方針や大学基準ごとの方針及び昨年度の課題に基づいたPDCA(点検評価)が適切かどうかの評価を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署や委員会が行った自己点検評価の点検評価を実施する 	
3. 教育研究組織	—	—	—	—	—	—
4. 教育課程・学習成果	①基盤教育を検討・整備し、充実させる。	4-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 本学の基盤として学士力の要素を包摂する基盤教育の構築を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 基盤教育の構成やカリキュラム、単位数の見直し、教育内容や教育方法、教育評価の基準と方法について検討する 	
	②学生の学習を促進するための取組みを充実する。	4-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 講義演習科目のアクティブ・ラーニングの実施 講義科目及び演習科目のシラバスの授業形態(あるいは授業回)にいずれかを含むものをALと定義 「PBL、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク」 	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングの導入率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとに行動計画を策定し、取組を行う。

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
キャンパス	千葉	総務部 教務(教学)委員会 教育向上委員会 初年次教育委員会	大学共通科目として「共生論」を開講している。新入生教務オリエンテーションにおいて、体系図によって本科目の位置づけを説明した。	良
	千葉第二	自校教育推進委員	新任オリエンテーションにて自校教育に関する内容を説明した。新入生及び教員においては降誕会に積極的に参加した。委員会活動としては、新任教員向けの動画の作成、共生論の必修化に向けた課題解決にむけた取り組みを行った。	良
	埼玉	教務委員会	宗教行事への学生参加については、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応として対面参加と遠隔参加のブレンド型を実施。教職員は原則対面、参加学生は学科毎に分割して実施した。	可
	東京	自校教育委員会	新入生セミナーで使用する自校教育動画を作成し新一年生全員が視聴した。各宗教行事も感染防止対策の見地から対面、配信の両様で実施した。	優
学部	総合福祉	学部自己点検評価委員会	3月24日に自己点検・評価委員会を開催し、委員会等より取り組み等についての報告を受け、2021年度の活動等についての点検・評価を行った。	良
	コミュニティ政策	学部自己点検評価委員会	3月24日に自己点検・評価委員会を開催し、委員会等より取り組み等についての報告を受け、2021年度の活動等についての点検・評価を行った。	良
	看護栄養	学部自己点検評価委員会	各委員会等による自己点検・評価結果の適切性について、評価を実施し、いずれの委員会等も適切にPDCAを実施していることを確認した。	良
	経営	学部自己点検評価委員会	各委員会等による自己点検・評価について学部自己点検評価委員会が集約・確認し、PDCA(点検評価)が適切に行われているかどうかをチェックして、必要があれば修正するよう依頼した。	優
	教育	学部自己点検評価委員会	本年度の「3つの方針」についての評価を学科会で実施するとともに、改訂された大学の「3つの方針」に基づいて、改めて学科としての「3つの方針」の見直し・改善に着手した。	良
	人文	学部自己点検評価委員会	自己点検・評価に必要な書類の提出、委員会での確認を通じて、PDCAサイクルを回した。	優
—	—	—	—	—
大学	高等教育研究開発センター		2021年3～4月にプレイスメントテスト、後学期12月～1月にアチーブメントテストを実施した。テストの分析結果はセンター内で共有され、R4年4月以降に結果を報告予定。	良
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	90.70%	S
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	91.6%	S
	看護栄養	教務委員会	90.1%新型コロナウイルス感染拡大が継続している中でも積極的に取り入れることができた。	A
	経営	教務委員会	シラバス上でのアクティブラーニングの実施導入率は100%。ただしコロナ感染拡大による遠隔授業等による座学への切り替え等、適宜、迅速に対応して課題とフィードバック等で双方向の授業形態を担保した。	S
	教育	教務委員会	94.50%	S
	人文	教学委員会	感染症対策により通常期とは異なるため不明(参考:2021年度シラバス授業形態に「アクティブラーニング」と表記されている科目48.5%(141/291科目))	※

* 達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

第1部 II 内部質保証と評価

大学基準	実現目標	成果指標				備考
		No	種類	成果指標・データ定義	3年後の指標	
4. 教育課程・学習成果	②学生の学習を促進するための取組みを充実する。	4-22	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生の授業外学習時間の増加学修行動調査の設問「授業課題、準備学習の時間の結果」を用いるまた数値は学部全体（調査実施全学年）を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> [授業時間以外の学習時間]週10時間以上：15%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとに行動計画を策定し、取組を行う。
	③学習計画とそれに基づいた授業展開の効果を検証する。	4-31	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生授業アンケートのシラバス忠実度と授業満足度の検証の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの検証の実施を委員会内で行う 	
		4-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生授業アンケートにおける到達目標の達成度 授業アンケート設問Ⅲ-1、肯定的回答は「大いにそう思う」とする 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答 50%以上 	
	④教員のチームによる教育目標への取組みを行う。	4-41	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教員のチームによる科目間連携を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 科目間連携の協議を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 科目間連携とは、履修体系図で示された各体系の科目間で目標・内容・評価等を連携する事を指す。 科目間連携の協議は学位プログラム内や同一科目複数開講でも行う。
	⑤カリキュラム・ポリシーやアセスメントポリシーに基づき、学修成果の実情把握と指標の開発によって教育成果を推進する。	4-51	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとの学修成果における測定指標・取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果を包括的に把握する指標や取組みの検討をする (DPやCPを踏まえたルーブリックの開発、ポートフォリオの活用や評価方法の開発など) 	

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	教務委員会	7.30%	D
	コミュニティ政策	教学委員会	2.50%	D
	看護栄養	教務委員会	16.3%	A
	経営	教務委員会	2.70%	D
	教育	教務委員会	5.30%	D
	人文	教学委員会	6.4% シラバスチェックにより、適切な事前事後学習を指示しているか確認した。	A
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	委員会内での検証は行わなかった。授業アンケートの結果は、シラバス忠実度96.5%であった。	可
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	「授業アンケート」(前学期)の結果は、シラバス忠実度90.2%、授業満足度87.8%であった。	可
	看護栄養	学部教育向上委員会	シラバス忠実度は94.7%、満足度は94.2%であった(前学期)。アンケート結果のうち一部の項目をFD研修会で検証した。	良
	経営	教育向上委員会	学生授業アンケートの結果については、教育向上委員会が中心となり実施し、集計結果は教員各自で把握するとともに、学部長・学科長がそれぞれ期限内で内容確認して共有し、フィードバックに役立てた。	可
	教育	教育向上委員会	学生授業アンケートの結果について確認を実施した。	良
	人文	教育向上委員会	授業アンケートの検証を委員会内で行った。	良
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	前期32.0% 後期集計中	C
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	前期24.4% 後期集計中	C
	看護栄養	学部教育向上委員会	到達度は前学期29.6%、後学期25.4%であった。	C
	経営	教育向上委員会	前期39.1% 後期41.8% 前・後期ともに目標の25%を超えた。	A
	教育	教育向上委員会	前期39.1% 後期41.8% 前・後期ともに目標の25%を超えた。	A
	人文	教育向上委員会	前期25.3%/後期31.0% コロナ禍で遠隔授業もあったため、肯定的回答率は高くなかったが、前年度よりも改善した。	C
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	実習科目、演習科目について、各実習委員会での議論を通じて連携を実現している。	可
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	4つの学問領域内、および社会調査関連科目を中心に、連携を実施している。	可
	看護栄養	看護学科・栄養学科	(看護学科)シラバス作成時のFD研修会やカリキュラムマップ(案)の作成を通して科目間連携について再確認した。(栄養学科)引き続き学科履修体系図により学科連携を確認し、学科FD研修を実施し、100%シラバスに記載した。	良
	経営	教務委員会	経営学科では、教育内容の重複回避を目的に科目間連携を既に導入。観光経営学科では、科目「内」連携が定着するもの今後、横断的な科目間連携の構築が急がれる。経営学科では社会福祉学科との科目間連携も行っており、今後も継続の予定である。	優
	教育	教務委員会、こども教育学科長	昨年度に引き続き、「入門セミナー」「キャリアデザイン」において現役教師の話を伺い、夏季休暇中のボランティア体験を経て「学校インターンシップI」「フィールドスタディI」に取り組んだ。その後2年次の「専門演習I・II」等において、現場体験を理論的に裏付ける学習を進める等して科目間連携を進めた。	優
	人文	教学委員会	科目間連携・同一科目複数開講の連携を目的として学科にて、科目内容、評価方法などについて検討・協議を実施した。	優
学科	社会福祉		<ul style="list-style-type: none"> DPやCPを踏まえた学科ルーブリックを3年次実習の実習前後および福祉系ビジネスインターンシップIIIのインターンシップ前後で活用していくことを方針としている。 国家試験課程の4年生を対象にポートフォリオを活用している。 	可
	教育福祉		学士ルーブリック、保育・教育実習ルーブリックを活用した学修指導及び教職指導の充実を目指している。またそれらを組み込んだ教育福祉学科ポートフォリオを活用して学生の指導にあたっている。	可
	実践心理		学修成果における測定指標・取り組みの検討として、心理学科特有のスキル修得に向けた、少人数教育の取り組み内容については、各学年ごとの目標を明示的に示している。今年度は特に1年生において、大学標準のルーブリックを加えることで、多角的な視点からの自己評価を行うことが可能であった。	可
	コミュニティ政策		学修成果を把握するための実践科目ルーブリックをサービスマニエングラムで運用した。学修成果を把握するための実践科目報告会を遠隔で実施した。	良

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
4. 教育課程・学習成果	⑥カリキュラム・ポリシーやアセスメントポリシーに基づき、学修成果の実情把握と指標の開発によって教育成果を推進する。	4-51	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとの学修成果における測定指標・取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果を包括的に把握する指標や取組みの検討をする (DPやCPを踏まえたルーブリックの開発、ポートフォリオの活用や評価方法の開発など) 	
		4-52	結果	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック、ポートフォリオ等やアセスメント結果を用いたリフレクション・学生指導等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100% (実施者数/学生数) (維持目標) 	
5. 学生の受け入れ	①入学者数、在籍者数の適切な管理をする。	5-11	結果	<ul style="list-style-type: none"> 入学定員充足率 (入学者数/入学定員×100) 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度定める入学定員超過率を遵守する (維持目標) 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の定員管理の方針に則り、向こう3年間の定員管理を忠実に履行していく 私立大学等経常費補助金の取扱い並びに大学等の設置等に係る認可基準を踏まえた入学定員充足率とする。
		5-12	結果	<ul style="list-style-type: none"> 収容定員充足率 (在籍者数/収容定員×100) 	<ul style="list-style-type: none"> 収容定員充足率 100%以上105%未満 (維持目標) 	
		5-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> 留学生在籍率 (留学生在籍者数/留学生在籍者数+社会人学生数×100) 留学生及び社会人の定義は経常費補助金特別補助の定義を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画等に基づいた留学生、社会人の割合が収容定員の3%以上 (大学全体) 	

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学科	看護		学修成果の可視化のため、例年通りにアセスメントツールの積極的推進と取り組み状況の把握をした。	良
	栄養		全教員参加の卒業研究評価・査読による総合的学修成果の把握の実施	良
	経営		複数回にわたるオンライン面談と各種テーマに係るアンケート調査の実施により学修成果を含む学生の現状把握に取り組んだ。卒論ループブリックの導入も引き続き実施した。	優
	観光経営		複数回にわたるオンライン面談と各種テーマに係るアンケート調査の実施により学修成果を含む学生の現状把握に取り組んだ。卒論ループブリックの導入も引き続き実施した。	優
	こども教育(学科長)		履修カルテをポートフォリオとして活用し、毎学期、すべての学生においてセルフチェックを行ってきた。	良
	表現		ディプロマポリシーにも記載されている学修の中でも学士力の土台となるアカデミック・ライティングに着目し、初年次から卒業研究までの段階的な指導内容について科目間連携も含め、学科で情報共有、ガイドラインの策定を行った。	優
	歴史		ループブリックの成果検証のためのFDを学科内で実施した。	良
学科	社会福祉		ループブリック 相談援助実習、実習指導履修学生を対象75%、福祉系ビジネスインターンシップⅢ履修学生を対象100% ポートフォリオ 社会福祉士・精神保健福祉士課程学生100%	B
	教育福祉		前期78.5% 後期 % 数値未定	B
	実践心理		25.0%	D
	コミュニティ政策		13.7%(サービスマニエール評価)	D
	看護		実習ループブリック(倫理的側面、看護過程)は実習最終日に実施。学士力ループブリックは前学期は全学年に実施、後学期は各学年の新年度オリエンテーション時に実施した。	B
	栄養		卒業研究履修者は、100%達成した。複数教員の査読を実施し、内容の充実を図った。	A
	経営		100% 卒論ループブリックも含め達成できた。	S
	観光経営		100% 卒論ループブリックも含め達成できた。	S
	こども教育		100%(履修カルテに基づいた個別指導、卒論ループブリック)	S
	表現		100%。卒業研究ループブリックも含め、達成できた。	S
	歴史		100% 学士力ループブリック、学生指導などで対応。	S
大学	大学アドミッションセンター		10.2%(入学者数1,252名/1,220×100)	B
学部	総合福祉	学生厚生委員会	99.8%(1796/1800 在籍者数2021年5月1日現在)	A
	コミュニティ政策	学生厚生委員会	107.9%(418/380 在籍者数2021年5月1日現在)	A
	看護栄養	学生厚生員会、各学科、看護学科学修支援委員会、栄養学科学修支援委員会	収容定員充足率は、学部98.2%(707/720)、栄養学科88.1%(282/320)、看護学科106.3%(425/400)であった(在籍者数2021年5月1日時点)。(看護学科)各学年の学修状況に合わせた年間の支援プログラムを計画し実行した。また成績低迷者には別途の支援プログラムを設けた。(栄養学科)学生確保に向けた具体的施策プロジェクトの実施だけでなく、学科活動をよりアピールするよう多方面への広報を強化した。また、学修支援プログラムを実施し、成績低迷者をフォローした。	A
	経営	学生厚生委員会	96.5% 2022年5月1日現在:現在経営学部在籍学生数 772名 経営学部収容定員 800名 経営学部収容定員充足率 96.5%(772/800)	C
	教育	学生厚生委員会	(464/500)×100=92.8%(2021年5月1日時点)	A
人文	教学委員会	(610/580)×100=105.2%※在籍者数は2021年5月1日にて算出	S	
大学	大学アドミッションセンター		1.12%(留学生55名/収容定員4,880名×100)	D

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
6. 教員・教員組織	①教育力の向上のために組織的な対応を行う。	6-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容等の改善を図るためのFDの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートに関するFD、アセスメントに関するFD、事後学習レポートに関するFD、学生の自己の学修成果のリフレクションに関するFD等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 淑徳大学2019年～2021年FD・SD等計画に基づき、次のFDを実施する(2019.4大学協議会) ※2022年度のFD等の計画は未策定。 学位プログラムごとに行動計画を策定し、実施する。
		6-12	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容等の改善を図るためのFDの実施 	<ul style="list-style-type: none"> シラバス作成に関するFD、履修モデルの有効性の検証と課題整理に関するFD、カリキュラムポリシーに基づく教育方法及び成績評価の点検評価に関するFD、間接的学修評価と学生の成長変化に関するFD、ICTを用いた双方向授業に関するFD、アセスメントとディプロマ・ポリシーに関するFD等の実施 	
		6-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> FDの参加率 	<ul style="list-style-type: none"> FD参加率100% (維持目標) 	
	②研究成果の教育と社会への還元を推進する。	6-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 担当科目に関わる研究業績等(大学の研究業績管理システムに入力したもの、もしくは大学のホームページに掲載されたもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 担当科目に関わる論文又は社会への公表 年2件相当以上 	<p>【備考】研究業績等事例：著書、担当科目の教科書、学術論文、教育実践記録(論文形式のもの)、研究紀要(学部紀要、大学附置機関等の年次報告書)における論文、調査報告書、科研費報告書等、学会発表、翻訳、市民向け講演、公的機関における講演・講義、新聞・テレビ等メディアにおける報道、その他広く社会への還元と位置づけられる事項。またそれらの事実を確認できること</p>
	③外部研究資金の導入により専門教育の充実を図る。	6-31	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金に関する説明会参加者数参加率 	<ul style="list-style-type: none"> 教員参加率50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の2019年度実績をもとに、3年後の指標を設定し、学部自己点検評価委員会が確認を行う。
		6-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の申請件数 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数20件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数7件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数5件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数5件以上(学部単位) 	
<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数6件以上(学部単位) 						
<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数15件以上(学部単位) 						

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
大学	高等教育研究開発センター		2回FDを開催した。 2021年9月2日「授業評価アンケート分析結果の概要～学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か～」及び2022年3月2日「成績評価の厳格化・客観化」に向けて	良
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	シラバスFDとICTを用いた双方向授業に関するFDを実施した。	可
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	シラバスFDのみ実施した。	可
	看護栄養	学部教育向上委員会	目標に掲げた4つのFD中、3つのFDを実施できた。	良
	経営	教育向上委員会	学部FDを全5回実施した。各テーマは次の通り。「配慮を必要とする学生への学修支援について～障がいの理解とお願い～」「アドバイザー制度・アドバイザーマニュアル(学修支援関連)について」「コロナ禍における双方向型授業の教育方法」「シラバス作成FD研修会 事前学習・事後学習の記載と効果」「学生のラーニングアウトカムとディプロマポリシー」	優
	教育	教育向上委員会	全6回開催した。「コロナ禍における対面授業への取り組みについて」「アドバイザー制度・アドバイザーマニュアル(学修支援関連)について」「コロナ禍における双方向型授業の教育方法」「休学・退学念慮を抱く学生への対応」「事前学習・事後学習の記載と効果」「学生のラーニングアウトカムとディプロマポリシー」。	優
	人文	教育向上委員会	全4回(2021年度の授業運営・コロナ禍の教育方法・学習成果ツールの活用・シラバス作成)を実施した。	優
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	100.0%	S
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	100.0%	S
	看護栄養	学部教育向上委員会	参加率で最も低いものは89.3%であった。その他はほぼ100%である。	A
	経営	教育向上委員会	100%	S
	教育	教育向上委員会	100%	S
	人文	教育向上委員会	100%	S
学部	総合福祉	学部長	年2件以上の研究業績を公表した教員は15名(33%)であった。	D
	コミュニティ政策	学部長	12件	C
	看護栄養	学部長	2件以上公表67.5%、1件のみ25.0%、0件7.5%(公表予定なし)	B
	経営	学部長	専任教員18人で、活字業績は46本であった。目標の36本を達成した。学部内・学科内における教員間連携が進み、共著の積み増しが複数みられた。	S
	教育	学部長・こども教育学科 学科長	概ね実施できている。引き続き、研究成果の公表ができるよう取り組んでいく。	B
	人文	学部長	専任教員の大半が論文等の公表を行った。	A
大学	教育研究支援センター		(100%)コロナのため説明会は実施せず、全教員に資料配布のみ行った。	※
学部	総合福祉	学部	科研費(9件)／外部資金(1件)	B
	コミュニティ政策	学部	科研費(2件)／外部資金(1件)	D
	看護栄養	学部長	2022年度新規申請は研究代表者として5件、分担者8件の計13件であった。	A
	経営	学部	科研費 新規申請0件、採択済み継続3件。申請件数が0件であったことは教授会でも議題にし、次年度以降の積極的な申請を促した。	D
	教育	学部	科研費新規申請4件(採択1件)	B
	人文	学部	6件	B

* 達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
6. 教員・教員組織	③外部研究資金の導入により専門教育の充実を図る。	6-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の獲得件数 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等採択件数10件以上(学部単位) 科研費等採択件数3件以上(学部単位) 科研費等採択件数3件以上(学部単位) 科研費等採択件数2件以上(学部単位) 科研費等採択件数3件以上(学部単位) 科研費等採択件数8件以上(学部単位) 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の2019年度実績をもとに、3年後の指標を設定し、学部自己点検評価委員会が確認を行う。
		6-34	結果	<ul style="list-style-type: none"> 公的機関、地域団体、企業等からの研究資金を伴う委託研究または共同研究等(受託研究件数+共同研究件数) 	<ul style="list-style-type: none"> 15件以上(内訳:受託研究件数3件以上・共同研究件数12件以上) 10件以上(内訳:受託研究件数5件以上・共同研究件数5件以上) 3件以上(内訳:受託研究件数2件以上・共同研究件数1件以上) 2件以上(内訳:受託研究件数1件以上・共同研究件数1件以上) 4件以上(内訳:受託研究件数2件以上・共同研究件数2件以上) 受託研究件数1件以上・共同研究件数1件以上 	
7. 学生支援	①修学支援を充実する。	7-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生の個別状況に応じた修学支援体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある学生に対する修学支援体制の確立 	

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	学部	科研費(3件)職員1件含む/外部資金(1件)	B
	コミュニティ政策	学部	科研費(1件)/外部資金(1件)	B
	看護栄養	学部長	2022年度新規採択件数は基盤B1件(代表者、分担者3名は本学部教員)であった。代表採択者が2021年度末退職のため採択2件から1件となった。なお、2022年度新規採択(分担者)は4件であった。	A
	経営	学部	学長裁量の競争的資金(2022年度教育改革推進事業助成費)1件採択	A
	教育	学部	新規採択1件 継続採択3件	B
	人文	学部	科研費代表 新規採択2件(退職者1件+新規採用者1件)、分担新規採択1件(新規採用者)、科研費代表 継続5件、分担 継続7件(6件+新規採用者1件)	A
学部	総合福祉	学部総務	0件	D
	コミュニティ政策	学部総務	3件	D
	看護栄養	学部長	住友理工株式会社、常総市幸せ長寿課(委託研究2件)	B
	経営	学部	2件【根拠】①(公社)川越青年会議所 名称:川越市市政施行100周年記念事業KAWAGOE SUNRISE2022 ②筑西市観光振興推進協議会(主催)名称:筑西まちづくりキャンパスチャレンジカップ―道の駅から始まる“未来のダイヤモンド”150千円(いずれも観光・永井恵一ゼミ)	S
	教育	学部	3件(内訳:文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局委託研究・共同研究、厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)共同研究、東京都港区教育委員会『港区教育史』委託研究)	B
	人文	学部	0件	D
キャンパス	千葉	教務委員会 教学委員会 学生厚生委員会	2021年度の遠隔授業下においては、障がい学生への合理的配慮として授業動画の字幕付与等を行った。また、対面授業では聴覚障がい学生への手話通訳や、肢体不自由学生への教室配慮等を行った(教務委員会)。 聴覚障がい学生へ要約筆記、手話通訳を授業保障として対応。障がい学生用ロッカーの貸与を継続。また、ノートテイク実行委員会にヒアリングを行い、ニーズと支援状況を確認し、改善が必要な箇所の洗い出しとテイク学生を増やすための体制整備を実施した(学生相談センター)。	可
	千葉第二	学生厚生委員会(学生支援相談担当者会)	相談支援体制を中心に、障がい学生の支援を継続実施した。(視野障がいがあり合理的な配慮が必要な新入生に関して、学校医、保健室担当者、アドバイザー教員が協働して対応)学科教員の情報提供を密に行い科目ごとのサポートを実施した。また、コロナ禍を考慮し、学生相談をスマートフォン(QRコード)から申し込めるよう体制を整備するとともに対面相談は換気のできるセミナー室で相談を行うよう配慮した。	良
	埼玉	学習支援センター	聴覚障害の学生を受け入れ、学生総合相談支援室と連携しUDトークやその他アプリなどを導入、支援体制を整備した。差別解消のガイドラインをあらためて配布、共有し、勉強会を実施した。聴覚障害の学生が1名在籍。授業は遠隔文字通訳システムT-TACK Captionを活用。タイムラグなし。研修を受けた学生サポートは、経験を積むことでスムーズに連携できる見込み。持続可能な体制が構築され、運用も問題なく行われている。Wi-Fi環境が教室によって異なるため、Wi-Fiの環境整備が望まれる。	優
	東京	教学委員会	障がいを理由とする差別の解消の推進に関する規程ならびにガイドラインに基づき、修学支援体制を組織している。 入学希望者に対し複数回面談を行い、対応を検討した。	優

* 達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
7. 学生支援	①修学支援を充実する。	7-12	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学習の継続に困難を抱える学生（成績不振学生、休学、留年者、退学希望者）の状況把握と対応の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 授業欠席者の把握とそのフォローを行う 	
		7-13	結果		<ul style="list-style-type: none"> 退学・除籍率3%未満 	達成度は以下とする。 Sは3%未満、Aは3～4%未満、Bが4%～5%未満、Cが5%～6%未満、Dが6%以上
	②生活支援を充実する。	7-21	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の悩ごとを抱える学生への相談対応 	
		7-22	結果	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント研修参加率100%（維持目標） 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席時、研修会記録（ビデオ）等を見た上でのレポート提出含む

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	学生厚生委員会、教務委員会、学生相談センター	学生厚生委員会と出席不良学生の情報を共有することで、アドバイザーが指導等を実施しやすくなるよう支援を行った(教務委員会)。対面、ハイブリッド、オンラインという多様な授業形態に合わせて出席不良学生抽出基準を見直した。多様な面談方法を定着させ、アドバイザーが学生の状況を確認し出席率向上に向けた助言等を行える環境を整えた。さらに面談結果報告書も電子化し配布、提出の効率化を実現した(学生相談センター)。	可
	コミュニティ政策	学生厚生委員会、教学委員会、学生相談センター	学生厚生委員会と出席不良学生の情報を共有することで、アドバイザーが指導等を実施しやすくなるよう支援を行った(教務委員会)。対面、ハイブリッド、オンラインという多様な授業形態に合わせて出席不良学生抽出基準を見直した。多様な面談方法を定着させ、アドバイザーが学生の状況を確認し出席率向上に向けた助言等を行える環境を整えた。さらに面談結果報告書も電子化し配布、提出の効率化を実現した(学生相談センター)。	可
	看護栄養	教務委員会、各学科	(教務)各担当教員に対して、学生の授業欠席回数の定期的把握を進めた。 (看護・栄養)成績低迷者に対する学修支援委員会の支援を強化し、アドバイザー教員、学科内で共有した。	良
	経営	学習支援センター	アドバイザー、学生総合相談支援室等の関連部署が連携して欠席過多学生の把握、個別フォローを実施。措置退学対象者へは学部長面談を実施して、退学率の削減に努めた。	優
	教育	学習支援センター	毎月の学科会で欠席が多い学生、授業に困難を抱える学生に関する情報を把握した。その情報をもとに、アドバイザーや学生総合相談支援室等の関連部署が連携して学生へのフォローアップを実施。	良
	人文	教学委員会	成績不振者(及び保証人)との面談、授業欠席者への個別対応を実施。 1、2年次生全員に、クラスアワー、必修授業第16週などを利用し、対面での個別面談を実施した。3、4年次生には各ゼミにて、必要に応じて随時個別の面談を行った。	優
学部	総合福祉	学生厚生委員会、教務委員会、学生相談センター	1.89%(34/1796)分母は2021年5月1日、分子は2022年4月教授会承認数	S
	コミュニティ政策	学生厚生委員会、教学委員会、学生相談センター	3.35%(14/418)分母は2021年5月1日、分子は2022年2月教授会承認数	A
	看護栄養	各学科、学生厚生委員会、看護学科学修支援委員会、栄養学科学修委員会	退学者・除籍者 学部1.84%(13/707)、看護学科2.6%(11/425)、栄養学科0.71%(2/282) ※2022年3月31日現在	S
	経営	学習支援センター	4/1現在：学部3.77%(30/796)、経営学科5.44%(24/441)、観光経営学科1.69%(6/355)	B
	教育	学習支援センター	1.29%(6/465)	S
	人文	教学委員会	アドバイザー教員、学生相談室等と連携し、修学意欲が低下する学生に対してのフォローアップを実施。 コロナ禍で多くの制限があったが学生満足度向上を目的とし、学園祭の対面実施や学内イベントなどを実施した。	S
キャンパス、学部	千葉	学生厚生委員会、学生相談センター	遠隔授業やハイブリッド授業が継続中のため、引き続きメールや電話によるカウンセリングを行っている。成績不振学生の面談はZoomを引き続き使用している。	優
	千葉第二	学生厚生委員会(学生支援相談担当者会)	前年度同様に学校医、保健室担当者、アドバイザー教員、カウンセラーが協働して、学生相談に加えて、精神面を含めた保健衛生分野でのサポートを進めた。また、COVID-19蔓延化に対しては、電子メール、オンライン面談を活用した。	良
	埼玉	学生厚生委員会	アドバイザー、学生総合相談支援室等の関連部署が連携し、対面ならびにオンラインも活用しながら学生と個別面談等の対応を行った。相談件数3,648件(2021年11月末現在)内訳：学生総合相談支援室54件・保健相談室566件・カウンセラー621件・キャンパスソーシャルワーカー2,407件	優
	東京	教学委員会	アドバイザー教員、ゼミ担当教員による個別面談により、状況把握に努めた。必要に応じて学生相談室への連携も行った。 「健康観察記録ノート」を全学生に配布、日々の健康観察を記録することを求め、健康管理への自覚を促した。	優
キャンパス	千葉	各キャンパス ハラスメント防止・対策委員会	年2回実施しているハラスメント防止研修会の参加率100%(コミュニティ政策学部)	S
	千葉第二	ハラスメント防止委員会	参加率100%達成した。	A
	埼玉	ハラスメント防止委員会	年2回の研修参加率ならびにアンケート回答率100%	S
	東京	ハラスメント防止委員会	100% 対象となる教職員全員が年2回の研修に参加した。	S

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
7. 学生支援	③進路支援を充実する。	7-31	行動	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数20回以上 年間実施回数 看護学科2回以上、栄養学科10回以上 年間実施回数7回以上 年間実施回数30回以上、他3・4年生全員面談実施 	
		7-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 就職率 	<ul style="list-style-type: none"> (各学科)就職率90%以上(就職者数は学校基本調査を用いる) $\frac{「就職者」+「進学者のうち就職している者」}{(「卒業生」-「大学院研究科等進学者」+「進学者のうち就職している者」}$ (維持目標) 	
		7-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(国家資格含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(現役生) 社会福祉士：60%、精神保健福祉士：100%、中学校教諭(社会)：100%、特別支援学校教諭：100% 資格取得率・合格率100%(維持目標) 資格取得率・合格率該当なし。 資格取得率・合格率該当なし。ただし、公務員の合格率について卒業生の10%を目標とする。(維持目標) 国家試験合格率(看護師)100%(保健師)100% 管理栄養士国家試験合格率95%程度以上(管理栄養士養成校平均合格率以上) フードスペシャリスト合格率90%程度以上(全国平均合格率以上) 	

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
キャンパス	千葉	千葉キャンパスキャリア支援センター、キャリア支援委員会、総合キャリアセンター	46回	優
	千葉第二	看護学科キャリア支援委員会、栄養学科キャリア支援委員会	看護学科では、個別就職相談会、千葉東病院交流会、マナー講座、国試・就活を語る会を実施した。栄養学科では就活セミナー、面談、おしごとセミナー、キャリア国試懇談会などのべ15回以上開催した。	優
	埼玉	キャリア支援センター	経営学部では全7回 根拠：学内合同企業説明会(4月・5月・6月)を3回実施、埼玉県16大学合同企業説明会(7月)、集団面接会(7月・10月・2月)を3回実施した。そのほか、就活スタート確認全員面談(3/23~4/20)を実施した。また、1月には進路未決定者を対象とした説明会をハローワーク所沢の就職支援ナビゲーターの協力をいただき、実施をした。	優
	東京	キャリア支援委員会	60回(年間ガイダンス回数)/3年生全員面談：4~5月に前倒して実施/4年生面談：9月実施、新卒学年次生の全員面談を春休み中に前倒して実施	優
学部	総合福祉	千葉キャンパスキャリア支援センター、キャリア支援委員会、総合キャリアセンター	88.5%	A
	コミュニティ政策	千葉キャンパスキャリア支援センター	86.9%	A
	看護栄養	看護学科キャリア支援委員会、栄養学科キャリア支援委員会	看護学科では、公務員対策講座、アドバイザーやキャリア支援室と連携した個別支援を実施した。看護学科就職率97.8%(卒業生95名中：就職91名・進学2名・受験準備1名・就職活動中1名) 栄養学科就職率97%(卒業生67名中：就職65名・就職を希望しない者2名)	S
	経営	キャリア支援センター	(2022年4月8日判明分)就職志望者の98.2%(経営学科97.8%・観光経営学科98.6%)、その他大学院進学1名、各種学校1名ほか	S
	教育	キャリア支援センター、教員・保育士養成支援センター	100%(82/82名) 小学校教諭29名、幼稚園教諭6名、保育士26名(含：公務員保育士)、認定こども園に4名、公務員2名、一般企業等15名	S
	人文	キャリア支援委員会	卒業者の74.5%、就職希望者の98.2%(歴史学科98.2%、表現学科98.1%)(2022.4.1現在)	S
学科	社会福祉		社会福祉士63名 57.4%(目標60%) 精神保健福祉士4名 80%(目標100%) 中学校教諭(社会科) 0%(目標100%) 特別支援学校教諭2名 13%(目標100%)	D
	教育福祉		資格取得率 教員免許・保育士資格 % (目標100%) 数値未定 教員63%(目標(千葉県2021年度 小・中高保体・養護・特支平均倍率2.9倍) 34%×1.5=51%) 保育士88%(目標(千葉県保育職2021年度4.7倍) 21%×1.5=32%)	※
	実践心理		指標・取り組みに関しては該当なし。	D
	コミュニティ政策		指標・取り組みに関しては該当なし。ただし、公務員合格について、2021年度は卒業生中6.3%(6名/96名)	B
	看護学科、看護学科キャリア支援委員会、看護学科学修支援委員会		1~3年次生へのGoogle Classroomを活用した学修支援プログラムの実施、2年・3年次に対し国家試験のための模擬試験の実施、4年次生への学内・学外講師による国家試験対策講座を実施した。看護師国家試験合格率97.9%、保健師国家試験合格率91.7%。	A
	栄養学科、栄養学科キャリア支援委員会、栄養学科学修支援委員会		1年次の前後期、各学年の長期休みを利用した学修支援プログラムを実施した。管理栄養士国家試験合格率84.2%、フードスペシャリスト合格率83.3%	B

* 達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標				備考
		No	種類	成果指標・データ定義	3年後の指標	
7. 学生支援	③進路支援を充実する。	7-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(国家資格含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率70%(維持目標) 資格取得率・合格率70%(維持目標) 資格取得率95%・採用試験等合格率70%(維持目標) 該当なし 資格取得率・合格率100%(維持目標) 	
	④正課外活動に対する支援を充実する。	7-41	行動	<ul style="list-style-type: none"> 部活・サークル活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の充実 	
8. 教育研究等環境	①防災及びバリアフリー等への対応を推進し、安全で快適なキャンパス環境の整備を行う。	8-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の安否確認方法(学生、教職員)の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の安否確認方法(学生、教職員)の検討 	
		8-12	結果	<ul style="list-style-type: none"> 防災や災害時対応の意識向上のための研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> 防災意識や災害時対応に関する研修実施(年1回以上) 	
	8-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> 災害備蓄品の大学基準設定と備蓄率 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村が定める備蓄率100%(維持目標) 		
	②情報通信技術(ICTの環境)の整備、ネットワーク機器等の充実に努めるとともに、情報倫理の確立に取り組む。	8-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対する情報倫理教育の実施回数 	<ul style="list-style-type: none"> 新年度オリエンテーション(SNS使用)及び情報関連正課授業における情報倫理教育の実施(1年生各1回以上) 	

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学科	経営		MOSWord42名合格/45名受験、MOSPPT 5名合格/5名受験、MOSExcelExpert10名合格/15名受験、MOSExcel61名合格/62名受験、秘書検定2級9名合格/15名受験、宅地建物取引士0名合格/3名受験。なお、ファイナンシャル・プランニング技能検定試験：人員未達で不開講	C
	観光経営		アシスタントウェディングプランナー検定(AWP検定)29名合格/36名受験(80.6%)、旅行業務取扱管理者(国内)16名合格/24名受験(66.7%)、旅行業務取扱管理者(総合)0名合格/2名受験(0%)	C
	こども教育(学科長)		保育士資格取得率100% 公務員保育士合採用試験合格率84.6%(11/13名) 小学校教員採用試験合格率67.7%(21/31名)	S
	表現		該当なし	※
	歴史		100% 資格に必要な単位を取得した学生。	S
キャンパス	千葉	学生厚生委員会 正課外教育委員会	2020年度の取組を定着させた。コロナ禍ではあるが、認定、準認定、届出団体計44のうち全体の84.1%にあたる37団体まで活動団体を広げた。感染防止対策を徹底し、学生団体でのクラスター等発生は0件に抑え込むことが出来た。	優
	千葉第二	学生厚生委員会	正課外活動は、感染防止対策のため、自粛が続いたが、一部書籍学習への切り替えを実施した。	良
	埼玉	学生厚生委員会		
	東京	教学委員会	後学期より対面授業が本格的に再開され、活動も再開した。所定の期日までに活動計画書を提出させ、認められた団体のみ許可することとした。	良
キャンパス	千葉	総務部	職員については緊急連絡網を整備済みで、6月14日に電話連絡訓練を実施した。学生への緊急連絡についてはS-Navi(個別の場合は電話)を使用するが、2021年度の緊急連絡の運用訓練は未実施。	可
	千葉第二	キャンパス安全対策本部(事務部長)	学生は、S-Naviを利用した安否確認方法を整備。教職員は、緊急連絡網(電話)を利用した安否確認方法を整備。	良
	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	キャンパス安全対策実施本部会議を毎月1回実施して、状況の把握・共有を強化した。緊急連絡網、危機管理マニュアルの整備、避難訓練の実施等を引き続き徹底した。	優
	東京	総務	教職員については、災害発生時の緊急連絡の予行演習を7月24日に実施した。学生の安否確認訓練は未実施。	可
キャンパス	千葉	総務部	1回 9月30日に、千葉キャンパス教職員を対象に「避難誘導」「地震および煙体験」の訓練を行った。	A
	千葉第二	キャンパス安全対策本部(事務部長)	2021年6月に、教職員を対象とした緊急連絡網の訓練を実施。2021年7月に、教職員を対象とした防災訓練を実施。2021年12月に、教職員および学生を対象とした防災訓練を実施。	A
	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	2月10日に防災避難訓練を実地で行った。避難の手順、経路を確認、水消火器の体験も実施した。	優
	東京	総務	0回 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う入構制限により実施不可の為。	※
キャンパス	千葉	総務部	3月末時点で非常食セット(9食分)879セット、レトルトパン・クッキー計750食、マジックライス1,500食(→3日分に換算し1,129名分)および500ml飲料水1,872本分の備蓄食を確保している。	C
	千葉第二	キャンパス安全対策本部(事務部長)	80%程度、防災上における3日間の食糧(推奨)は確保できていない。	B
	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	防災備蓄品はある程度整備が完了しているが、食糧等については3日間分が確保できていない。	B
	東京	総務	100% 昨年作成の災害備蓄品リストに基づき、今年度に期限を迎える備蓄品について入替を行った。	A
学部	総合福祉	教務委員会 学生厚生委員会 教学委員会	主に1年生は、新年度オリエンテーションおよび情必修科目「情報処理法」で、情報セキュリティと情報倫理について、全授業回のうち1回分学んでいる(教務委員会)。 新入生オリエンテーションでSNSについてリーフレットを配布しそれに基づき注意喚起を行っている(学生相談センター)。	S
	コミュニティ政策	教学委員会 学生厚生委員会	主に1年生は、新年度オリエンテーションおよび情必修科目「情報処理法」で、情報セキュリティと情報倫理について、全授業回のうち1回分学んでいる(教務委員会)。 新入生オリエンテーションでSNSについてリーフレットを配布しそれに基づき注意喚起を行っている(学生相談センター)。	S

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考
		No	種類	成果指標・データ定義 3年後の指標	
8. 教育研究等環境	②情報通信技術 (ICTの環境) の整備、ネットワーク機器等の充実に努めるとともに、情報倫理の確立に取り組む。	8-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対する情報倫理教育の実施回数 新年度オリエンテーション (SNS使用) 及び情報関連正課授業における情報倫理教育の実施 (1年生各1回以上) 	
	③学生の自主学習や主体的な学びを促進するための取組みを充実する。	8-31	結果	<ul style="list-style-type: none"> ラーニングコモンズの利用 (学修等行動調査設問 Q4 (1・3年向け) Q9・(2・4年向け) Q7 で利用経験 (月1、2回～毎日) がある学生の割合 ラーニングコモンズ (フリースペース) の利用率90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 東京キャンパスはフリースペースとする。
		8-32		<ul style="list-style-type: none"> WEB学習システムの利用 (学修等行動調査設問を活用) (1・3年向け) Q10・(2・4年向け) Q9 「WEB学習システムの経験」 で日常的にしている及びときどきしているの割合の合計 (学部別) 利用率45%以上 	
	④淑徳大学研究倫理規程の趣旨に則って研究倫理教育を推進し、個別審査を実施する。	8-41	結果	<ul style="list-style-type: none"> 公的研究費に係るコンプライアンス研修実施、参加率 コンプライアンス研修：年1回以上、教員参加率100% (維持目標) 	
		8-42	結果	<ul style="list-style-type: none"> 教員に対する研究倫理教育の実施、参加率 研究倫理教育 (教員)：年1回以上、参加率100% (維持目標) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員参加率：各回の説明会参加者数 (欠席時の課題提出等含む) / 各回の説明会ごとの専任教員数
	9. 社会連携・社会貢献	①公的機関、企業等との連携により社会貢献活動を推進する。	9-11	結果	<ul style="list-style-type: none"> 協定に基づく公的機関、企業等との連携による社会貢献の事業数 事業数5件
9-12			<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動実績を1件以上上げる 		
			<ul style="list-style-type: none"> 事業数5件 		
			<ul style="list-style-type: none"> 事業数7件 (大項目) 小項目では約29件 		
			<ul style="list-style-type: none"> 事業数1件 		

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	看護栄養	千葉第二ネット委員会、(教務委員会)	新年度オリエンテーション、情報関連正課授業、看護学科実習科目においてSNS使用・遠隔授業におけるリテラシーに関する説明を実施した。学内IT機器と通信状況等について、淑徳大学情報センターと連携して情報共有を図った。次年度予定されている新通信回線の工事に向けて学内の通信状況や要望を伝えた。	S
	経営	経営学科 観光経営学科	情報倫理教育は全教員が全ての演習で実施(100%達成)。新年度ならびに新入生の情報倫理に関する周知は徹底して初回に実施した。	S
	教育	こども教育学科	SNSへの写真掲載に関する注意など、入門セミナー、キャリアデザイン、各種実習事前指導などで実施している。	S
	人文	教学委員会	2回。情報系授業および正課外クラスアワーにて実施。メディアリテラシーの基本を周知している。	S
キャンパス	千葉	図書館		
	千葉第二	図書室運営委員会	利用率74.6%	A
	埼玉	図書館運営委員会	学修等行動調査結果に基づく利用率：58.7%。コロナウイルス感染対策として利用制限等に伴う。	C
	東京	教学委員会	37.9%。感染症対策により、人数制限や長時間の利用禁止などの制限を設けた。	※
キャンパス	千葉	各キャンパス該当委員会		
	千葉第二	看護学科、栄養学科 看護学修支援委員会、栄養学修支援委員会	(看護学科) 授業内および事前・事後学習に独自システム「ナースングスキル」、「国家試験対策webシステム」の積極的活用を勧めた。利用率64.5% (栄養学科) eラーニング利用96.7%(全学年合計)。授業課題や試験で利用した。遠隔授業により全体的にGoogle Classroom利用が活性化した。	S
	埼玉	教務委員会	28.40%	B
	東京	教学委員会	16.5%理由不明。東京キャンパスには該当しないが、遠隔授業対応のGoogleクラスルームのことを当てはめて回答していると考えられる。	※
大学	教育研究支援センター		1回 100%	S
大学	教育研究支援センター		1回 100%	S
大学	大学地域連携センター		受託事業4件(千葉市1件、酒々井町1件、SM協会2件) 高大・大学連携事業4件(神田女学園、大正大学、京都文教大学、埼玉工業大学)	S
キャンパス	千葉	ボランティアセンター	千葉市が主催する行事が、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い開催中止となった影響により、各行事へのボランティア活動参加も取り止めとなった。	※
	千葉第二	地域連携委員会	<ul style="list-style-type: none"> 2件の要請に参加対応(参加率100%)し、教員による地域連携活動には、4事業で学生ボランティアが参加した。 松ヶ丘中学校、千葉南高校を対象に図書館開放ワークを開催した。 企業との社会貢献は2件実施した。 千葉南高校の高大連携事業を1回実施した。 	S
	埼玉	広報・地域連携委員会		
	東京	ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染防止対策に対応したボランティア活動のガイドラインを策定 6件(ダウン症児・者親の会、キッズすまいるコンサート、体操教室、講座などを、オンラインによる実施、動画公開) 1件(いたばし結まつり、ステージ司会、学生の自己開拓) 地域連携(1件)認知症サポーター養成講座を実施した(対面での参加は18名)。講座の様子は、youtubeチャンネルで限定公開 オンラインや動画配信など工夫してボランティア活動に取り組んだが、学生の主体的な活動は中止せざるを得ず、活動が限定的であった。 	B

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義 3年後の指標		
9. 社会連携・社会貢献	②社会人履修証明プログラムや公開講座等を全キャンパスで開講する。	9-21	行動	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や卒業生に向けた公開講座、リカレント講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座、リカレント講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開も含む
		9-22	結果	<ul style="list-style-type: none"> 社会人履修証明プログラムの履修証明書交付人数(大学単位) 	<ul style="list-style-type: none"> 交付人数10枚以上/年(大学全体) 	
	③外国人留学生への支援体制を充実する。	9-31	行動	<ul style="list-style-type: none"> 支援プログラムの整備・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 支援プログラムの確立 	
10. 大学運営・財務	①大学の理念・目的及びそれに基づく将来を見据えた計画等を実現するために必要な財務基盤・予算配分を確立する。	10-11	結果	<ul style="list-style-type: none"> 財務比率(基本金組入前当年度収支差額比率、教育研究費比率、管理経費比率、人件費比率) 	<ul style="list-style-type: none"> 基本金組入前前年度収支差額比率5%以上の安定的確保(教育研究費比率30%以上、管理経費比率10%、人件費比率50%未満) 	達成度は以下とする。Sが5%以上、Aが3%以上～5%未満、Bが1%以上～3%未満、Cが0%以上～1%未満、Dが0%未満
	②大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教員の意欲と資質の向上を図る。	10-21	行動	<ul style="list-style-type: none"> 目的別SDの開催数 	<ul style="list-style-type: none"> SD開催数年2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 大学特別研修会を除く
		10-22	結果	<ul style="list-style-type: none"> SD教職員参加率 	<ul style="list-style-type: none"> 参加率100%(維持目標) 	

組織レベル	取組主体		2021年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
大学	大学地域連携センター 大学地域支援ボランティアセンター 地域連携委員会(学部)		【大学地域連携センター】対流ともいきキャンパス オンラインフォーラム 実施 【大学ボランティアセンター】認知症サポーター養成講座 実施	良
大学	大学地域連携センター		新型コロナ感染症拡大防止に伴い、オンラインでの開催となった。	※
大学学部	大学国際交流センター 学生厚生委員会		<ul style="list-style-type: none"> 留学生サポートを含む国際交流担当者オンライン打合せを毎月の定例会とした。 日本語学習サポートプログラムを立ち上げ実施した(千葉)。 大学公式 WeChat を利用した相互連絡を推進した。 	A
大学学部	大学事務部 キャンパス事務局		※2021年度決算後(5月末見込)	
キャンパス	千葉	教育向上委員会	1回 テーマ「チームズ、はじめの一步～ Microsoft Teams、何に使う?どう使う?」3/18実施	可
	千葉第二	事務部長	2022年1月27日にSD研修会を開催	可
	埼玉	総務	2022年3月1日SD研修会を実施	可
	東京	学部	1回。目標は年間2回だったが、開催は1回だった。	可
キャンパス	千葉	教育向上委員会	84.30%	A
	千葉第二	事務部長	2022年1月27日にSD研修会を開催し、欠席者には、後日動画視聴により参加率100%	S
	埼玉	総務	専任教職員全員を対象とし参加率100%	S
	東京	学部	100%。対象となる教職員全員が参加した。	S

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

外 部 評 価

淑徳大学は、自己点検・評価の内容及び活動に関する事項について、外部評価委員（（１）教育機関の教職員、（２）地方公共団体、地域団体あるいは地元産業界等の関係者、（３）その他の有識者）数名で構成された外部評価委員会による外部評価を毎年度実施しています。

2021年度の外部評価委員会 報告

I. 日時及び場所

日 時：2022年2月12日（土） 10時00分～11時35分

場 所：Zoom（大学各キャンパス及び外部評価委員指定の場所）

II. 2021年度外部評価委員会 議題及び報告内容

- （１）2021年度外部評価委員会の意見への対応について
- （２）3つの方針に照らした取組（教育方法及び教育評価）の適切性について
 - ・令和5年度以降の全学基礎教育科目について
 - ・令和4年度以降に向けた令和3年度実施の英語教育の検討について
- （３）3つの方針に照らした取組（入学者選抜、その他）の適切性について
 - ・学生募集について
 - ・大学入学者選抜の基本方針について
 - ・学生・高校・地域との連携について

III. 外部評価委員による講評

報告に基づき、外部評価委員会による講評は「評価点について大学のカリキュラムポリシーに基づく教育方法及び教育評価について、よくできており、全体と通しての評価点は「5 非常に評価できる」とする。」でした。なお、講評で出された他の意見に基づき工程表を作成し、2022年度に改善を行います。

- ・全学共通基礎科目について
- ・入試における小中高、高大連携について
- ・入試における地域と大学での包括協定の締結について